

「ZAIDAN Report」第14号では、「NPO法人 イナंकル」様の活動をご紹介します。

小児病棟に長期入院するお子さんに付き添うご家族へのサポート活動の一環として、当財団の2025年度事業助成先である「イナंकル」様が継続して取り組まれている、「心と体にやさしいお食事を届けるプロジェクト」を中心にご紹介します。

「NPO法人 イナंकル」様についてご紹介

設立の経緯

- 2020年10月、コロナ禍の最中に当法人代表・綿谷の長女が白血病と診断され、その日から長女の入院治療に寝泊りで付き添う生活が始まりました。
- その時、病棟に付き添う家族の生活が、こんなにも過酷なのかと衝撃を受け活動を開始しました。
 - * 付き添い者は患者ではないため、病院に寝食の用意はありません。付き添い中は、食べるもの、寝具などすべて自分で用意しなければなりません。
 - * 物理的にたいへんなのはもちろんですが、そもそも子どもがたいへんな病気になっているという精神状況の中で、幅75センチほどの簡易ベッドや、子どもと同じベッドで寝ています。
 - * 当然、プライベートもなく、メインは子どもの治療なので、いつ医療スタッフが入ってくるかわからないなど、十分な休息を取ることもできない状態で、日々病気に向き合う子どものためにそばで寄り添っています。
- この経験を通じ、食事の無償提供を始めたことがきっかけとなっています。

沿革

2020年10月	当法人代表・綿谷の長女入院
12月	「長期入院の子どもと付き添い家族を支える会」設立
2021年2月	無添加食品セット差し入れスタート(2月と9月に実施) ・北海道大学病院 ・札幌医科大学付属病院 ・北海道立子ども総合医療・療育センター(通称:コドモックル)
5月	北海道大学病院小児病棟へお弁当の無償提供スタート
7月	当法人代表・綿谷の長女、入院治療終了
8月	リフレッシュケアサポート事業スタート
2022年5月	NPO法人イナंकル設立
6月	札幌医科大学付属病院小児病棟へお弁当の無償提供スタート
2023年2月	子どもの病気・入院～退院後における家族の生活調査アンケート実施
2024年4月	コドモックルへお弁当の無償提供スタート
11月	札幌北楡病院へお弁当の無償提供スタート
2025年2月	「付き添い家族を知っていますか？」小冊子発行
10月	お泊りサポート・荷物預かりサポート スタート

【お弁当の準備風景】

「付き添い家族」の皆さんに、少しでも心がほっとできるひとときをお届けできれば、との想いで準備をしています。



活動内容

- 病児とその家族に対する生活支援事業
- 病児とその家族が地域社会と共生するために必要な支援事業
- 病児とその家族に関する調査研究の情報提供
- 病児とその家族に関する政策提言、関係機関との連携促進に係る事業

会員

- 正会員18名
- 賛助会員10名

※「イナंकル」とは、アイヌ語で“幸あれ”という意味だそうです。いつどんな状況でも、誰もがその人なりの、その家族なりの幸せを感じて過ごせるように、という想いが込められています。

今回の助成申込に至った背景

- ここには書ききれないほどのいろんな問題がありますが、この状況をなんとかしたいとの想いから活動をはじめました。お食事を届けるという行為が図らずも、病児家族とのアウトリーチ活動になることもわかり、一緒に問題を解決しようと、NPO法人となりさまざまな機関、団体との連携も行うようになり、調査・啓発なども並行しながらここまで続けてきました。
- わたしたちの基本の活動は、真心のこもったおいしくて体に優しい食事を届けること。人の体をつくるのは食事です。付き添っている家族にも、食事がくらしい家にいるような時間を、と思ってやみません。
- しかしながら、収入を伴う事業がないため、支援者の輪も広げる活動をしています。まだまだ助成金に頼らざるを得ない状況が続いています。

- 今回、太陽生命厚生財団の「日頃行政や医療・福祉の狭間で見落とされがちな、公的サービスでカバーされにくい各種活動の支援事業が対象になる」との募集要項を拝見し、病気になった子どもとその家族が、どんな時も「当たり前の日常」を過ごせる社会を目指すというわたしたちの想いと付き添い家族への活動が趣旨と合致するのではないかと感じました。そこで、この助成によってわたしたちのメイン活動であるお食事サポートの活動の継続と発展を図りたいと考え、申請に至りました。

【お弁当の準備】

「付き添い家族」の皆さんに、少しでも心がほっとできるひとときをお届けできれば、との想いで準備をしています。



「付き添い家族」の実態について

— 「付き添い家族」の生活を知ってください —



難病児の治療は長い場合、年単位、短くても半年以上かかります。

その間、家族は病棟に24時間付き添いを求められることが多いです。

治療を受ける子の心を保ち、生活全般の介助と見守りをする必要があります。子どもが乳幼児であれば、成長と発達を伴うため、親の存在は必要不可欠でもあります。

にもかかわらず、付き添い家族は、寝るところも食べるものも自分で用意します。食事のために用意されているのは、電子レンジと熱湯のみ(場所によってはトースター)。これで、何ヶ月もの間、日々の三食を賄います。食べているのは、冷凍食品、カップ麺、缶詰、レトルト食品、フリーズドライ食品、菓子パン、パックご飯などです。これらを主に病院内のコンビニで買います。コロナ禍以降感染予防対策強化は厳しくなり、なかなか建物外へ買いに行くことはできません。

寝ところは、折り畳みの簡易ベッドか、子どもと同じベッドで寝ています。

これは物理的な部分ですが、そもそも病名を告げられた直後から、「子どもが重い病気になった」という状況にあることで、精神的な負担が大きい中で、このような状況にいます。

ギリギリの体力と精神力で上記のような環境で過ごしながら、子どものそばにいる家族のサポートが必要です。子どもの治療が最優先なので、誰も文句は言いません。食事以外にもストレスはたくさんあり、体を壊してしまい付き添う家族が子どもから離れてしまうこともあります。

これでは、子どもが安心して治療を受けられません。子どもが安心して治療を受けるためにも、付き添う家族の心と体のケアが必要です。医療にも福祉にも、どの行政サービスの対象にもならずに置き去りにされてきた付き添い家族のサポートが必要です。

助成事業の成果

- 過酷な付き添い家族の生活の質をすこしでもあげること
子どもの病気治療のためだから、と誰一人文句を言わない付き添い家族のみなさんにも、最低限の生活を病棟で送ってもらえるように体によい食事を届けて、付き添い家族のみなさんが健やかに笑顔で、病気と向き合う子どものそばにいてもらえる環境に近づけること。数値化が難しい部分ですが、わたしたちの目標であり、それが成果です。
- 病棟でも親子が笑顔でおいしい食事ができる瞬間ができる
病児には食事制限がある時もありますが、食事制限のない時は、お子さんも病院食とは違うおかずやご飯を楽しみにしてくれています。食べることは生きること、です。治療中であっても付き添いの身でもそれは変わりません。病棟でも親子が笑顔でおいしい食事ができる瞬間を生んでいます。
- 子どもの病気に対する不安や心配ごと以外のストレスの軽減につなげる
子どもの治療がうまくいくことだけが病棟にいるみんなの望みですが、そばにいる家族も元気で過ごしていることが、子どもの治療にとっても大きな影響を与えていると思っています。ほんのささいなことですが、このたまに届く食事が病棟のみんなに元気と癒しを送ることになって、少しでもストレスが減ってくれたらと思います。
- つながり(病児家族を孤立から防ぐ)
お弁当申し込み時の方法はLINE公式を使っており、そこでつながりができることで、お食事サポートだけでなく、やりとりができることから、退院後やほかのサポートにつなげることができ、社会復帰までの孤立を防ぐ。医療以外の相談ができる場所の提供をしていくことで、付き添い家族、退院後の病児の家族の継続的なサポートを行っていきます。珍しい病気のお子さんのご家族には、過去に同じ病気になったお子さんのご家族を紹介する、ということにもつながっています。
- 啓発
わたしたちの活動が知られることで、置き去りにされてきた付き添い家族と病児の問題が社会全体で共有され、医療の中の問題点として、市民のみなさんで話し合われる、議論されるような取り組みになればと思っています。

● 今回の助成期間中に提供したお食事の数

期 間	対象病身と実数	
2025年10月	北大病院付き添い家族利用者数	87人
	北医大病院付き添い家族利用者数	99人
	コドモックル	13人
	札幌北楡病院	47人
2025年11月	北大病院付き添い家族利用者数	64人
	北医大病院付き添い家族利用者数	84人
	コドモックル	16人
	札幌北楡病院	46人



付き添いされているみなさまへ〈札医大〉

2025年12月～北大・札医大共通～ 無償提供お弁当スケジュール

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
	お申込み開始日	2	3	4 お昼 そら	5	6
7	8	9 お昼 メグリメダル	10	11 お昼 パオン	12	13
14	15 お昼 SUVACO 弁当	16	17	18	19 お昼 あっこさんのお米蒸しパン	20
21	22	23 お昼 そら	24	25	26 お昼 SUVACO パン	27
28	29	30	31	※お正月お昼セットについて 5日のお昼休になる場合もございます。 LINE通知でご案内します。		



LINEのご利用がない方、
お問い合わせはコチラまで！
hukicommune.sapporo@gmail.com

今月のお申込み
QRコードはこちら
※毎月QRコードは変わります！

この事業は、公益財団法人太陽生命厚生財団の助成金と寄付で運営されています

手づくり弁当

無償で提供

ベーカリー パオン内山店



道産小麦と自家製酵母のパンは、シンプルながら、食べるほどに深い味わいが出ます。季節の旬野菜をパンもどうぞお楽しみに！

2日前18時締切

玄米ドコロ メグリメダル



「玄米を食べることで、身体の中を巡らせる」がコンセプト。プチプチ食感の玄米は、おいしいのももちろん、身体を温めてくれます

2日前18時締切

カフェ そら・空・宇宙



食材のエネルギーやおいしさを引き出す重ね煮を取り入れたお料理。この企画では、特別に土曜で炊いたお米を使用しています

2日前18時締切

キッズカフェSUVACO



南区川畑にあるSUVACOさん。パティシエオーサーのつくる自家製ランチはもちろん、スイーツと天然酵母パンも大人気のお店です。

2日前18時締切

長期入院の子どもと
付き添い家族を支える会
by HPO法人イアンリス

●長期入院の子どもと付き添い家族を支える会について ●2020年12月発足
当会代表の長女が白血病で入院治療をした時に付き添ったことから会を発見。付き添い家族として病院で生活を送り、付き添い家族の置かれた状況をなんとかしたい！との思いから活動を開始。サポート先は、北海道小児がん医療センター。サポート内容は、無償でレシピ・食品などの差し入れと手づくり弁当とパンの無償提供。退院後の病用と付き添い家族へのリフレッシュケアサポートの無償提供。2022年5月、NPO法人登録を完了。



【お弁当の受け渡し風景】

病棟にいても、少しでも家庭と変わらない味を届けたいと、素材や調味料にこだわったカフェやベーカリーのお弁当やパン、添加物の少ない保存食品などを付き添いのご家族に無償でお届けしています。

今後の抱負など・・・

- 医療の進歩により、小児がんやその他の難病であっても、社会へ戻る子どもたちが確実に増えています。わたしたちは、今の活動と並行しながら、病気とともに暮らしている家族や、子の病気治療後に社会復帰するまでの暮らしにおいてどんな困りごとがあるのか、また家族だけでなんとかやりきっているという風潮を社会全体の問題として多くの人に知ってもらえる取り組みをしていくところです。
- 病気になった子どもとその家族には、どのような支えが必要なのか。特別扱いではなく、どのような環境を整えば「当たり前」に社会の一員として過ごせるのかを多くの方と考えていきたいと思っています。
- また、同時に必要なこととして、当事者である家族が「自分たちは助けを求めている存在なんだ」ということに気付けるような取り組みをしていきたいと考えています。（自分たちなんてたいしたことないと思っている家族が多すぎるのです。）
- わたしたちは、社会の中で埋もれてしまいがちな声を、これからも丁寧にすくい上げ、支援につなげていきたいと考えています。